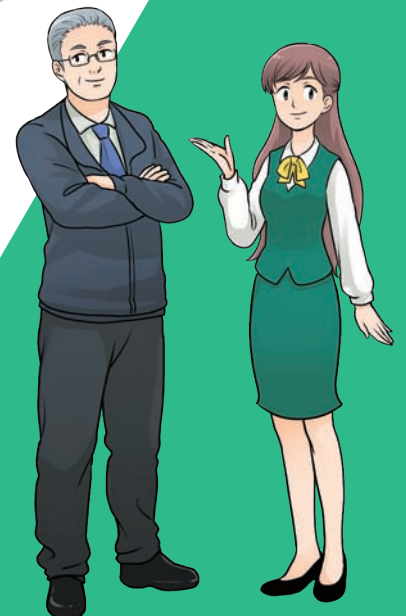
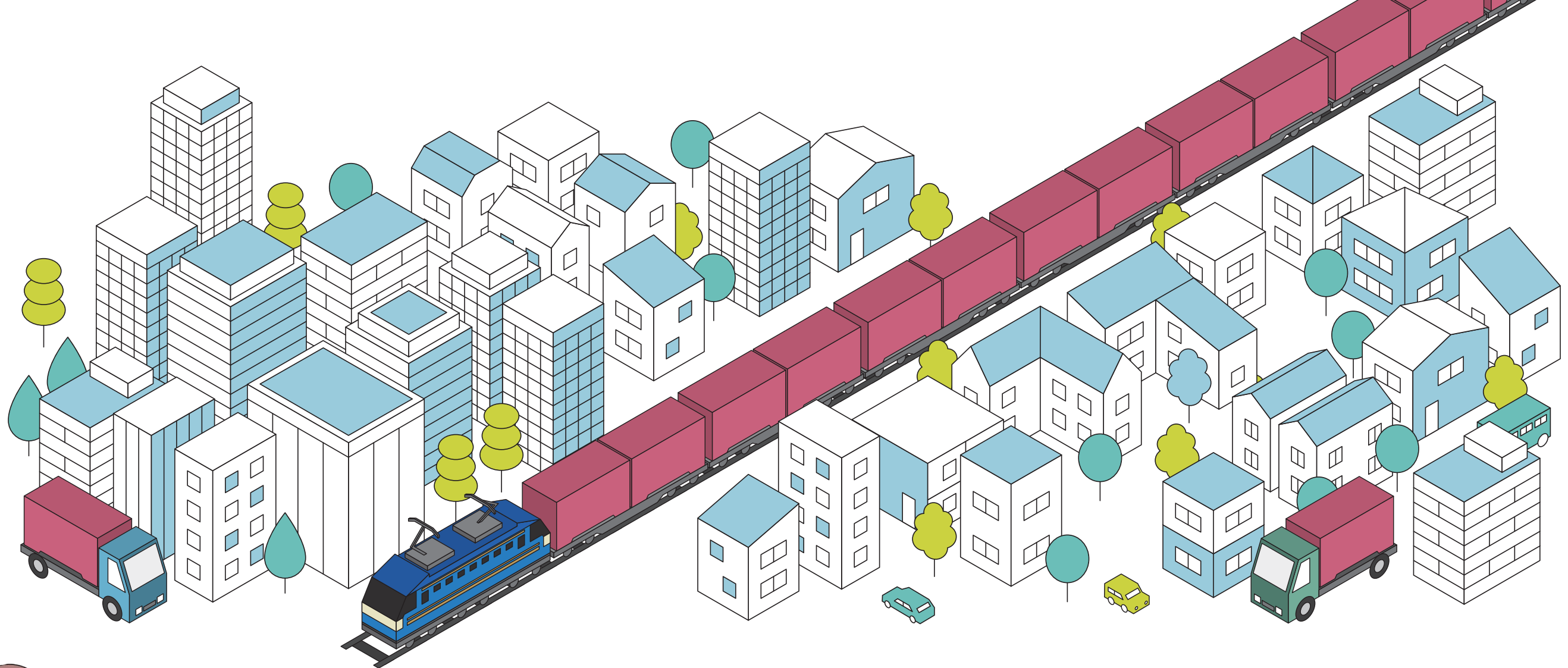


鉄道コンテナ輸送で
グリーン社会の実現を

What are the SDGs





そもそも「SDGs」って何？

エスディジーズ

持続可能な開発目標SDGsとは

持続可能な開発目標（SDGs:Sustainable Development Goals）とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。

現在、たくさんの企業・団体がさまざまな形で取り組んでいます。私たちも物流事業を行ううえで、何ができるかを考え、この「SDGs」に参画しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



エコくん®

「全国通運連盟」が行う取り組みをご紹介します。

CO₂排出量を抑えた、 環境にやさしい輸送「鉄道コンテナ輸送」



CO₂排出量を大幅に削減！ 気候変動への影響を軽減します。

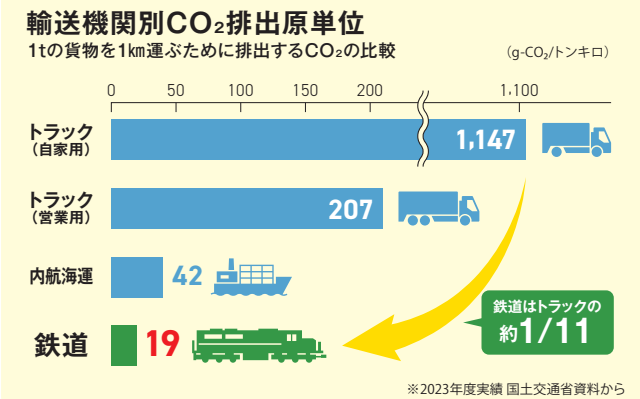


今や経済や暮らしに欠かすことのできない「物流」。物流にはトラックや鉄道を利用した陸運や、船を使った海運などがあり、それらを動かす際に多くのCO₂が排出されます。

「鉄道コンテナ輸送」は、CO₂排出量が少なく、環境に与える負荷を小さくすることができ、鉄道への「モーダルシフト」を拡大することで、地球温暖化を抑止することもできるのです。

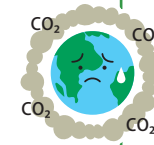
このように、気候変動への対策を取ることは、SDGs13にある「気候変動に具体的な対策を」に当てはまります。

私たちは、地球温暖化という深刻な課題に向き合い、環境にやさしい物流である鉄道コンテナ輸送の拡充を進めています。



知っ得!コラム1 「モーダルシフト」が地球を救う!?

18世紀後半の「産業革命」で、石炭を燃して動かす機械や機関車が発明され、人々の暮らしや働き方が大きく変わりました。その後、燃料に石油や天然ガスが加わり、燃料を燃やした際に排出されるCO₂が増えました。このCO₂が地球を覆い布団のように熱を蓄えてしまうことが、地球温暖化の原因の一つです。日本は年間の平均気温が1900年頃と比べ約1.2℃も高くなっており35℃以上の猛暑日も増えています。「モーダルシフト」でCO₂の量を減らすことができれば熱がこもらなくなり、地球温暖化を防ぐことにも繋がるのです。



※参考：環境省HP「おしえて地球温暖化」、気象庁HP「日本の気候の変化」を元に作成

知っ得!コラム2 1.5℃が地球の運命を変える!?

「産業革命」の頃から地球の平均気温は約1℃上がり、多く問題が出ています。このまま気温が上がり続けると、異常気象により農産物が育ちにくくなり、陸や海の多くの動物が絶滅してしまいます。2050年までに気温上昇を+1.5℃に抑えることができれば、豪雨の被害が減り、海面上昇が抑えられ小さな島国に住む人々が助かり、気候による厳しさや貧しさに苦しむ人が減るとも言われています。CO₂排出量の削減は、企業に与えられた課題ともいえるのです。



※参考：環境省HP「おしえて地球温暖化」を元に作成

エネルギーの消費量も約1/8に！ 資源を有効かつ効率的に利用します。



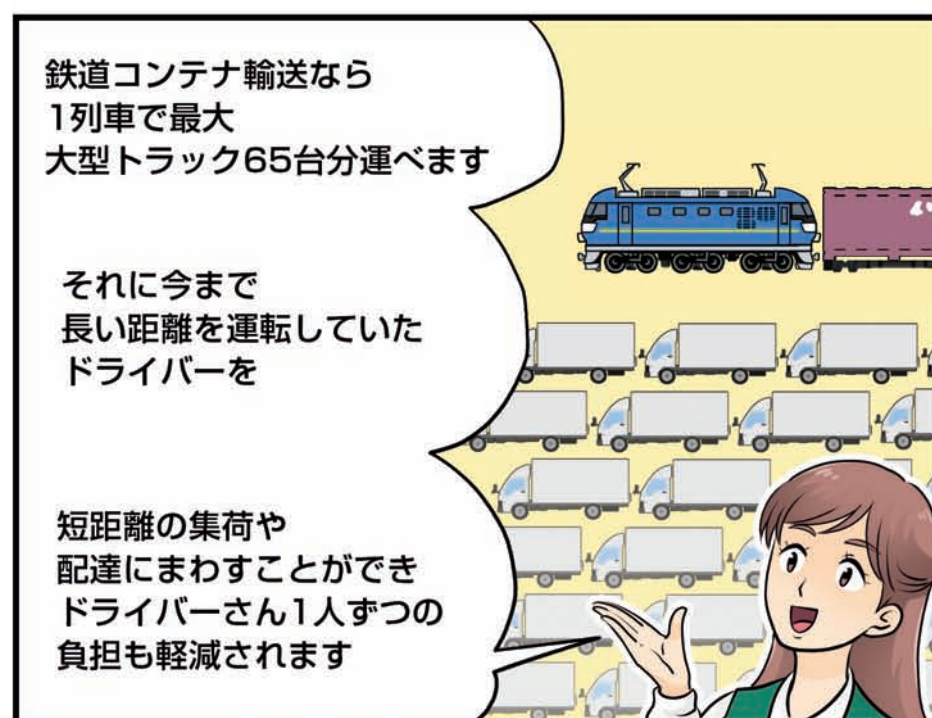
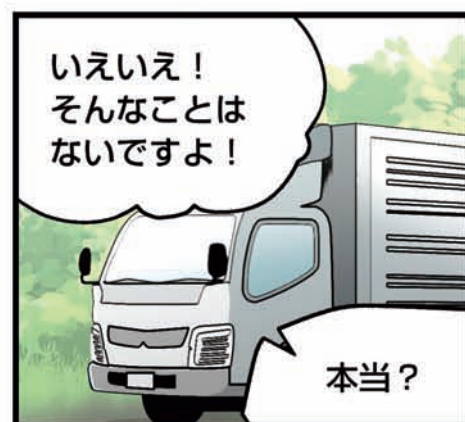
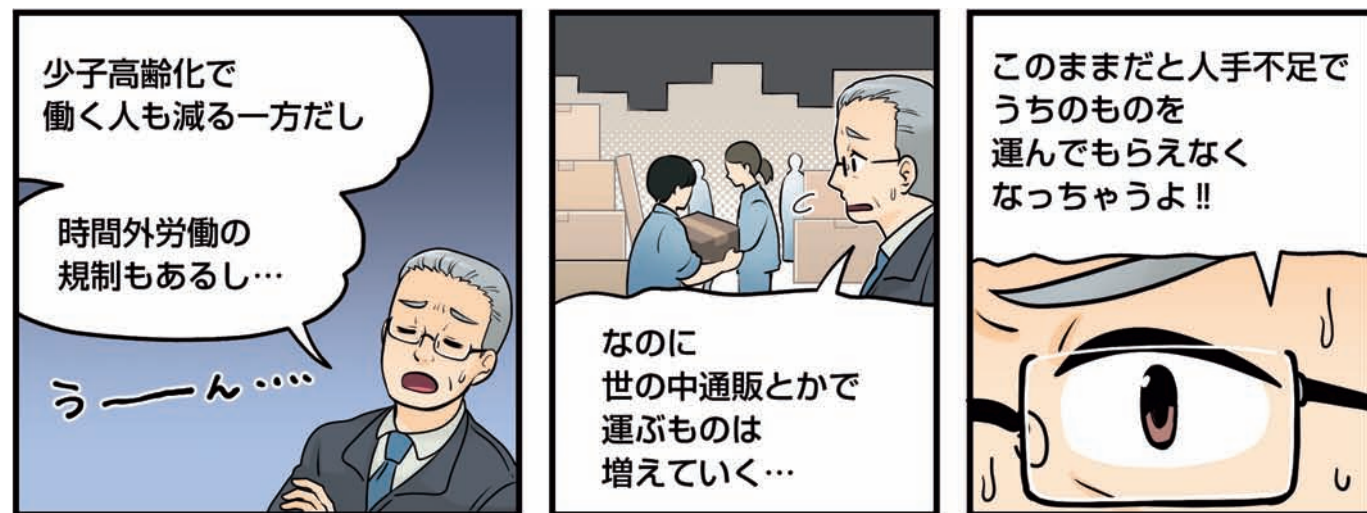
「モーダルシフト」を拡大していくことは、石油をはじめとする化石燃料の使用量削減にも貢献します。鉄道コンテナ輸送のエネルギー消費量はトラック輸送と比べ約1/8まで抑えることができ、余ったエネルギーを他のことに活用することができます。

エネルギーや資源を効率よく使うことは、SDGs7の「エネ

ルギーをみんなに、そしてクリーンに」と、SDGs12「つくる責任、つかう責任」にもあてはまります。限られた資源である化石燃料などを効率的につかい、またクリーンエネルギーに移行することで、私たちはエネルギー問題にも歩みよった物流を行っていきます。

CO₂の削減、エネルギー消費量の軽減には「モーダルシフト」が重要に！
鉄道コンテナ輸送で、環境問題への取り組みが強化できます！

中・長距離輸送は「鉄道コンテナ輸送」に！ トラック運転手の労働改善に繋がります！



鉄道コンテナ輸送なら“運べないリスク”を軽減！ ドライバーの働き方の改善にも繋がります！

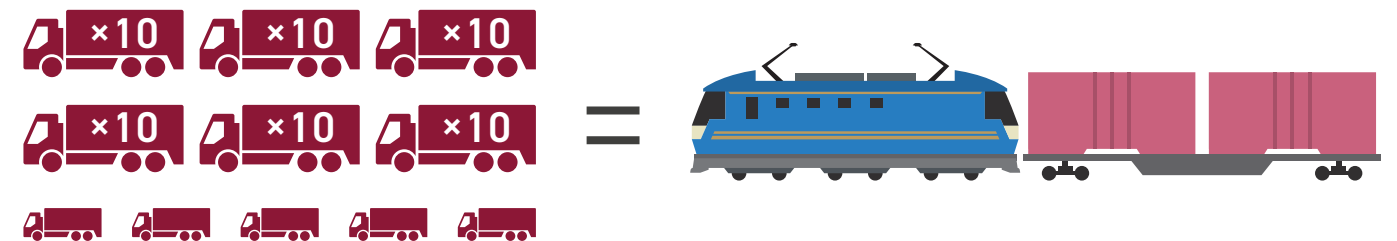


現在の日本は、少子高齢化による労働力の減少と働く人の高齢化が深刻な問題となっています。また、2018年に内閣で可決された「働き方改革関連法」により、2024年4月1日から自動車運転業務に関わる業種も時間外労働の上限が規制されるようになりました。運びたい貨物はあるのに運ぶ人材が足りない、いわゆる“運べないリスク”が顕在化しています。

鉄道コンテナ輸送なら、最大で大型トラック65台分の貨物を1度に運ぶことができ、つまり65人のドライバーが運んでいた貨物を、1人の運転士で賄うことができるようになるのです。

これまで長距離を運転していたドライバーを、短距離の集荷や配達業務へ転換していくことで、1人のドライバーへの負担をやわげることができます。それにより、高い経済生産性を生み出し、働く人にもやさしい「ホワイト物流」が実現します。これは、SDGs8「働きがいも、経済成長も」にあてはまります。

鉄道コンテナ輸送は、労働時間や業務内容を改善し、関わる人たちが働きがいのある仕事ができるようになります。鉄道コンテナ輸送で“運べないリスク”を軽減することが、日本の経済成長を助けることにも繋がっていくのです。



知っ得！コラム3 「働き方改革関連法」が物流業界にもたらす影響って一体なに？

「働き方改革関連法」とは、長時間労働の抑制や、雇用形態に関わらない公正な待遇の確保などを改正した法律です。この法律により、時間外労働の上限規制、有給休暇の取得、月60時間以上の残業に対する割増賃金率の引き上げなどが義務となりました。

この働き方改革関連法に違反すると、懲役や罰金などの処罰を受ける対象になります。

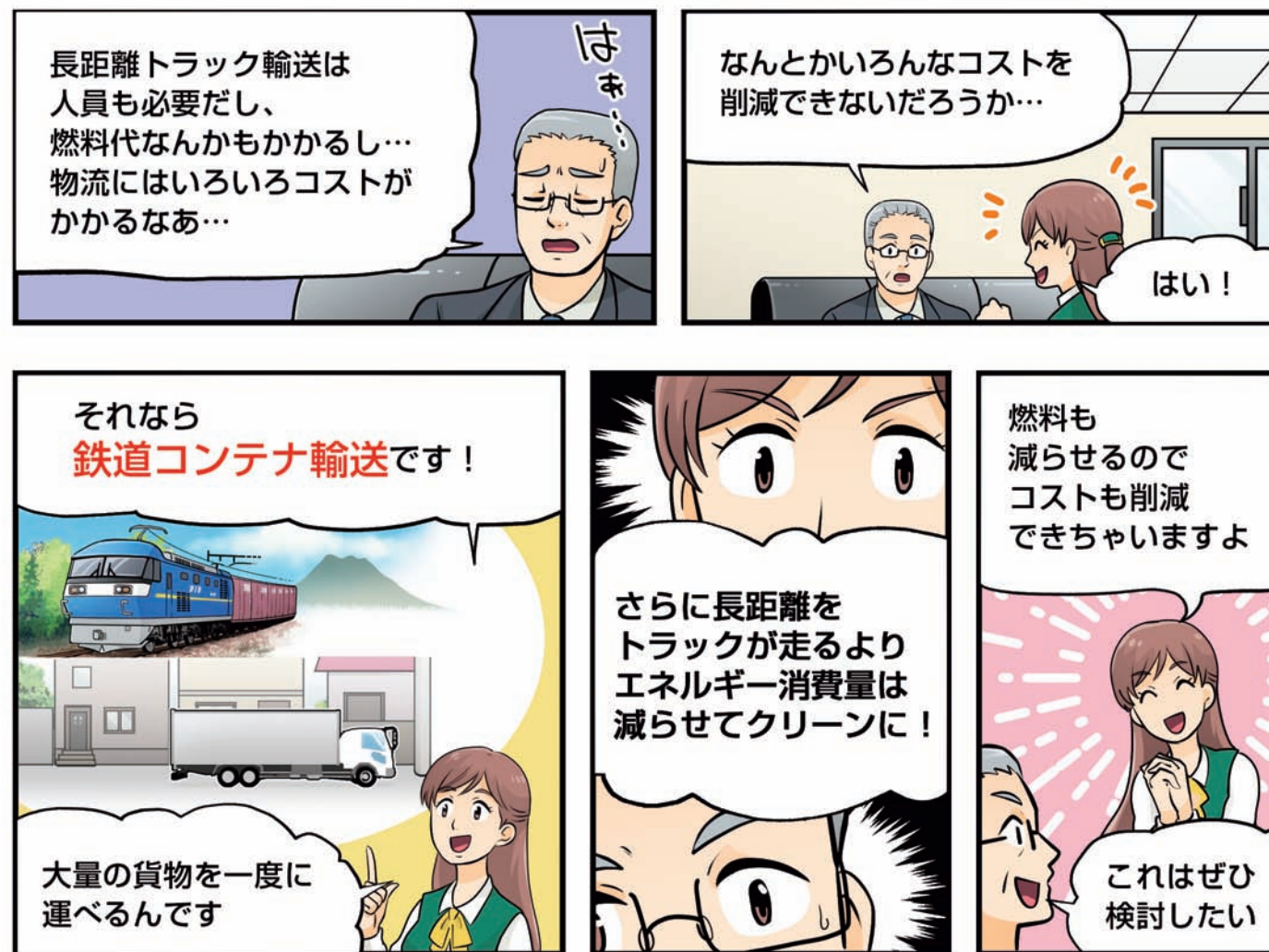
自動車運転業務が伴う物流業界においても、2024年の4月から時間外労働の上限規制がスタートしました。これは「2024年問題」とも言われ、輸送・運送計画の見直しや、勤怠管理・労務管理ツールの導入、離職防止・採用強化などの対応が必要となっています。

働き方改革関連法 施行スケジュール		2019.04	2020.04	2021.04	2023.04	2024.04
① 時間外労働の上限規制	大企業	●				
	中小企業		●			
	自動車運転業務等					●
②「勤務間インターバル制度」の導入促進						
③ 年次有給休暇の確実な取得		●				
④ 労働時間状況の客観的な把握						
⑤「フレックスタイム制」の拡充						
⑥「高度プロフェッショナル制度」の導入						
⑦ 月60時間超残業に対する割増賃金率の引き上げ	大企業	●				
	中小企業				●	
⑧ 雇用形態に関わらない公正な待遇の確保	大企業		●			
	中小企業			●		

※参考：厚生労働省 高知労働局「働く人に、」、SBクリエイティブ株式会社 ビジネス+IT「『物流の2024年問題』とは何か、ドライバーの収入は下がる？荷主側への影響は？」を元に作成

働く人にやさしい「ホワイト物流」を実現しませんか？
鉄道コンテナ輸送で、働き方改革を！

大量・長距離輸送で エネルギーの効率的な利用を！



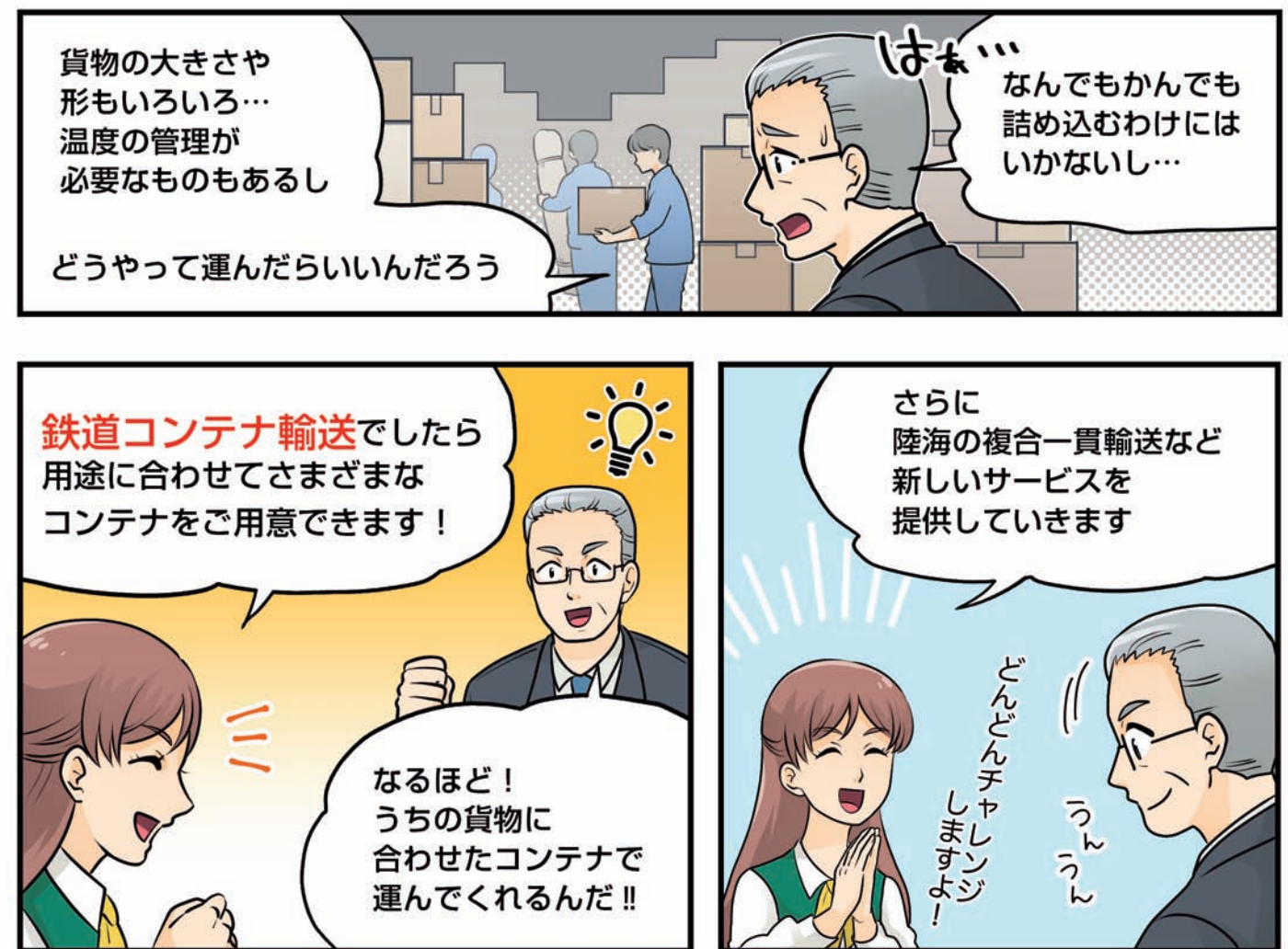
鉄道コンテナ輸送の大量・長距離輸送で エネルギーの消費量を抑え、効率的な運用を！

「鉄道コンテナ輸送」の特長は、一度に大型トラック65台分の貨物を輸送できる「大量輸送性」と、「長距離幹線輸送」です。また、トラック輸送でかかっていた燃料費や人件費などのコストも削減でき、とても効率のいい輸送方法といえます。この輸送効率性の高さは、エネルギーの消費量を抑えることができ、SDGs7の「エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」と、SDGs12の「つくる責任、つかう責任」にも貢献します。



大量・長距離輸送を実現し、エネルギー効率を改善します！
さらにコストの削減にも繋がるのが鉄道コンテナ輸送の強みです。

ニーズに合った輸送をご提案。 資源を無駄なく使い、環境にやさしい輸送を！



ニーズに応じたさまざまな運び方を提案！ 新しい技術も積極的に導入していきます！

温度管理が必要な貨物や、建材などの大型の貨物、液体のように形のない貨物など、貨物の形状や特性はさまざま。鉄道コンテナ輸送なら、どんな貨物でも最適な「運び方」を提案できます。貨物に応じたさまざまなコンテナを用意しており、大型トラックとほぼ同じ量の貨物が運べる31フィートコンテナを利用すること

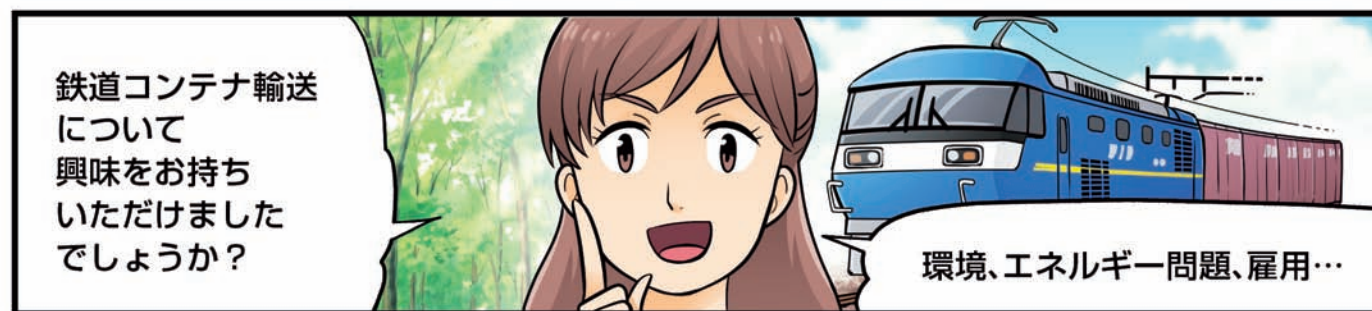
で、モーダルシフトも容易に行えます。また、一貫パレチゼーションにも対応可能な仕様となっています。さらにお客様のニーズに合わせたコンテナなどの開発も進めてきており、陸上と海上の複合一貫輸送で貨物を運ぶサービスも提供していきます。これらは、SDGs9の「産業と技術革新の基盤をつくろう」に該当する取り組みです。

知って！コラム4
「一貫パレチゼーション」とは!?
一貫パレチゼーションとは、作業効率を向上させるため、パレットに貨物を載せたまま発送から到着の荷下ろしまでを一貫して行う輸送方法です。これにより積み替えの際の省力化、コンテナトラックや貨車の回転率の向上、積荷が傷みにくくなるなど、多くの利点があります。

※参考：日本通運HP「ロジスティクス用語集」を元に作成

お客様の運びたいものを、ぴったりのコンテナで運びます。
陸海の複合一貫輸送などのサービスにより、物流に革新を起こします！

安定したレール輸送で安全！ さらに効率輸送で確実にお届けします！



日本全国を定時で運行し、確実にお届け！
また最新のシステムが安全でスムーズなサービスを実現します！

コンテナを取り扱う貨物駅は全国に約140ヶ所、毎日約400本のコンテナ列車が、日本の物流を支えるために走っています。列車は渋滞などの遅延もなく定時運行しているので、お約束の日に確実にお届けすることができます。また、最新システムにより、予約がスムーズに行え、輸送枠を自動調整することで業務効率化が図られます。さらに昨今の感染症対策にも対応した非接触物流となっています。

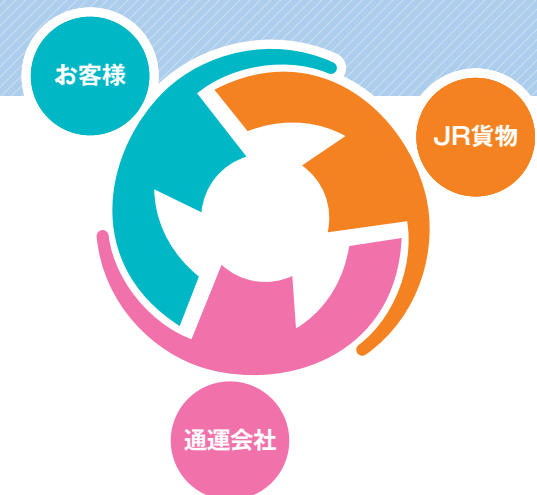
万が一遅延や事故が起きた場合でも、列車の位置情報を把握できる機能により、迅速な対応が可能となります。物流をスムーズに行うことで、地域間の成長の手助けを行い、安全性の高い輸送システムを容易に使えるようにすることは、SDGs 11の「住み続けられるまちづくりを」にあてはまります。

安全に、そして確実にお届けする鉄道コンテナ輸送で、
みんなが安心して住み続けられるまちづくりに貢献します！

さまざまな企業と連携！ パートナーシップを強化します！

JR貨物と通運会社の連携を活かした安心のコンテナ輸送です。

鉄道コンテナ輸送は、全国に最適な方法で貨物が届けられるようネットワークを広げています。
JR貨物と通運会社が連携し、お客様の大切な荷物をまごころを込めてお運びいたします。
それぞれの特長を活かしコミュニケーションをとりながら貨物輸送を行うことは、SDGs 17「パートナーシップで目標を達成しよう」に該当します。私たちは知識や技術などを共有し、これからもパートナーシップを強化していきます。



17 パートナーシップで目標を達成しよう

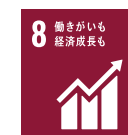
JR貨物と通運会社が連携し、お客様に貨物とまごころをお届けします！
知識や技術を共有し、パートナーシップを強化します！

まとめ 「鉄道コンテナ輸送」で実現するSDGs



エネルギーをみんなに
そしてクリーンに

鉄道コンテナ輸送は、トラック輸送と比較して、エネルギー消費量が大幅に少なく、エコな輸送方法として、今注目されています。



働きがいも
経済成長も

鉄道コンテナ輸送は、ドライバーの働き方改善に繋がり、「運べないリスク」も軽減できます。



産業と技術革新の
基盤をつくろう

ニーズに応じたさまざまな運び方を提案。新しい技術も積極的に導入していきます。



住み続けられる
まちづくりを

鉄道の安全・確実性を活用したスムーズな物流で、住みやすいまちを構築していきます。



つくる責任
つかう責任

鉄道コンテナ輸送はエネルギー消費量を抑制でき、資源をつかう責任を果たします。



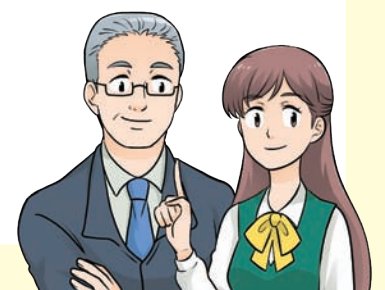
気候変動に
具体的な対策を

CO₂排出量を大幅に削減できる鉄道コンテナ輸送。気候変動への影響を軽減します。



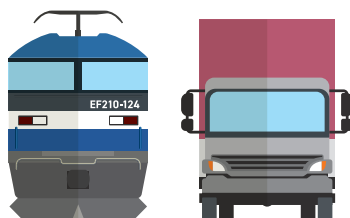
パートナーシップで
目標を達成しよう

JR貨物と通運会社が連携し、お客様に安心輸送とまごころをお届けします。





Realizing a green society by transporting rail containers.



冊子の内容はPC、スマートフォンからも動画で見られます！

こちらのQRコードから、このガイドブックに掲載の全国通運連盟が取り組むSDGsについて、動画でご覧いただけます。



公益社団法人 全国通運連盟

〒101-0063

東京都千代田区神田淡路町2丁目21 淡路町MHビル5階

TEL:03-5296-1670

<https://www.t-renmei.or.jp/>



エコくん®

お申込み、お問い合わせ先

